

【2022 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
基礎演習 II		必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 宏史 他	D305	sakamoto	木曜日 10:00~13:00		
授業の目的・概要	本演習は、学生が主体となり、積極的かつ能動的に課題に取り組む、実践型の授業である。グループごとに設定した研究テーマ・問題に対し、基礎演習 I で習得した知識と技法を用いて情報を収集・精査・分析し、課題の解決に向けた方法の検討・選択をすることができる能力を身につけることが目的である。さらに、プレゼンテーションを通して自分の考えを整理し、論理的で説得性のある発表・文章の作成ができることを目指す。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	課題を進める上で生じた疑問・不安は、遠慮なく教員やグループの学生に相談すること。本演習では何よりも積極的・能動的な学習 (アクティブ・ラーニング) の姿勢が求められるため、成功・失敗の経験を通して、課題への取り組み方を学んでいくことを期待する。 *授業計画中の S1~S3 については備考欄を参照すること。				
教科書	大学生 学びのハンドブック (5 訂版) / 編著: 世界思想社編集部 / 世界思想社				
参考書	必要に応じ講義中に紹介する。				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	他者と協調・協同して課題に取り組むことができる。			HSU(1), (4), (5)	
②	適切な資料に基づいて自分の意見を整理することができる。			HSU(2), (5), (6)	
③	自己の見解を適切な文章で表現することができる。			HSU(2), (5)	
④	適切なプレゼンテーションを行うことができる。			HSU(2), (5), (6)	
⑤	相手の意見を傾聴した上で、適切な質疑応答を行うことができる。			HSU(1)~(6)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション: 演習の進め方、評価方法の説明。大学での生活 (特に交通安全) や学習方法を再度確認する。	講義	教科書で内容を確認する。	0.5	
2	研究発表会準備①: グループに分かれ、研究テーマ・問題の設定を行う。研究発表についての自己評価形式を立案する。→S2, S3	講義・GW	発表準備を行う。	1	
3	研究発表会準備②: 発表に必要な情報・データを収集し、精査・分析を行う。発表の構成を考える。→S2, S3	講義・GW	発表準備を行う。	1	
4	研究発表会準備③: 各発表の主張の裏付けとなる証拠の資料・データをさらに収集し、発表の準備を行う。→S2, S3	講義・GW	発表準備を行う。	1	
5	研究発表会準備④: 準備を行い、発表資料を完成させる。→S2, S3	講義・GW	発表準備を行う。	1	
6	研究発表会準備⑤: 発表の予行演習を行い、評価を受ける。→S2, S3	講義・GW	発表準備を行う。	1	
7	研究発表会準備⑥: 予行演習での評価をもとに資料の修正を行い、最終版を完成させる。→S2, S3	講義・GW	発表準備を行う。	1	
8	研究発表会: 発表・質疑応答を実践する。→S2, S3	演習・GW	発表準備を行う。発表の振り返りを行う。	1.5	
9	(1) 理学療法領域の現状、今後についての講義を聞き、ノートを作成する。→S2	講義・演習	各回の内容についてまとめ、レポート作成に必要な資料を読む。	1	
10	(2) 作業療法領域の現状、今後についての講義を聞き、ノートを作成する。→S2			1	
11	(3) 福祉・心理領域の現状、今後についての講義を聞き、ノートを作成する。→S2 ※順不同で実施			1	
12	9 回目から 11 回目の講義の内容を 1 つ選び、各領域の問題とその解決方法に関するレポートを作成する。→S2, S3	講義・演習	レポート作成の準備を行う。	1	
13	必要な情報を集め、レポートを作成する。→S2, S3	講義・演習	レポート作成の準備を行う。	1	

【2022 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

14	チェックシートに基づいて全体を点検し、レポートを完成させる。→S2, S3	講義・演習	レポート作成の準備を行う。	1.5				
15	レポートの評価を受ける。講義を振り返り、自己評価を行う。今後の大学生活、学びについて計画を立てる。自己評価と今後について達成度評価レポートを書く。→S1, S2	講義・演習	達成度評価レポートを完成させて提出する。	0.5				
試								
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		0	40	40	0	20	100	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	15	10	0	0	25	
	思考・推論・創造する力	0	15	5	0	0	20	
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10	
	発表・表現伝達する力	0	5	10	0	5	20	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5	
	問題を発見・解決する力	0	5	5	0	5	15	
評価のポイント					フィードバックの方法			
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
レポート	①		執筆ルールに従ってレポートを作成できているか、適切な文章表現ができているか、テーマに沿った情報を収集できているか等を、ループリックを使用して評価する。	提出したレポートにコメントを付けて返却する。全体に対する指摘は、講義中の解説時間にコメントする。				
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①	✓	プレゼンテーションの構成、内容、表現技術、発表へのコメント、質疑応答等に対して、ループリックを使用して評価する。	講義中にプレゼンテーションの評価結果の発表とともにフィードバックを行う。				
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥							
その他	①	✓	演習への取り組み（練習や質疑応答）、課題の提出状況、提出された課題を総合的に判断する。「達成度評価レポート」から、意欲や成長を評価する。	提出物に対しては必要に応じてコメントを付けて返却する。全体に対する指摘は、講義中の解説時間、もしくは15回目にコメントする。				
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	稲場、小川、渡辺(俊)、宇賀、高田、前川、駒形、大塚、坂本(宏)、坂本 (祐)							
実践的授業の内容	プレゼンテーションの準備、実践など、グループワークを中心としたアクティブラーニングを行う。							
そ の 他	<p>大学での「学び」はこれまでの「学び」とは異なり、非常に多くの特別な能力（スキル）が必要とされる。健康科学大学では、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ（健康科学部）」、「スタートアッププログラムⅠ・Ⅱ（看護学部）」という大学初年次の演習系授業を中心として、これらのスキルの習得を目指している。本講義で習得を目指すスキルは、以下の3つである。</p> <p>(1) スチューデント・スキルズ (Student Skills)：大学での生活の仕方、図書館など施設の利用方法、メンタルヘルスの維持、グループワークでの基本、キャリアデザインなど →S1</p> <p>(2) スタディ・スキルズ (Study Skills)：書籍や文献の読み方、ノートの取り方、文章の書き方、レポートの作成方法、口頭発表の基本、学習成果の評価など →S2</p> <p>(3) アカデミック・スキルズ (Academic Skills)：問題の設定およびその解決に必要な情報の収集・分析方法、論理的かつ効果的な発表方法など →S3</p> <p>これらのスキルは重なり合う部分もあり、他の講義でも部分的にその習得を目指すことがある。本学の学生にはこれらのスキルを早く習得し、自らの「学び」を深めていくことを期待する。</p> <p>本科目は対面授業として実施するため、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は授業の参加を認めない。また、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によってシラバスの変更が行われることがある。</p> <p>※必修の演習科目なので欠席や遅刻をしないように努めること。演習の欠席は3回までしか認められない。遅刻も1回で欠席0.5回の扱いになるので注意すること。</p>							